

機関リポジトリのコンテンツ形成

小樽商科大学 附属図書館

barrel@office.otaru-uc.ac.jp

鈴木雅子

学術ポータル担当者研修@名古屋大学(平成20年7月23日)



簡単に自己紹介

- **小樽商科大学** 2007年4月～
教員130名 商(経・商・企法・社情・一般・言語・アントレ)
- **北海道大学** 2003年4月～2007年3月
教員2200名 文・法・経・農・理・工・医・歯・薬・獣医...
- **IRP(学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験
プロジェクト: Institutional Repositories Portal project)**
2004年6月～2005年3月
- **HUSCAP, Barrel**

目次

- 機関リポジトリ
- 機関リポジトリのコンテンツ
- 各コンテンツの考えどころ
- コンテンツ収集：教員への広報
- さいごに

機関リポジトリ

- ある機関の教員、研究職員、学生により創造された知的生産物のデジタル・アーカイブで、その機関内外のエンド・ユーザーにアクセス可能で、障壁があるとしても最低限、のもの(クロウ)
- 大学がその構成員に提供する、大学やその構成員により作成されたデジタル資料を管理し発信するための一連のサービス(リンチ)

学内構成員に提供するサービス！

- 機関リポジトリのコンテンツは、
 - 所属研究者の研究成果と機関の活動成果
 - 学術雑誌掲載論文、学会発表資料、記事、コラム、サイエンスデータ、ビデオ、音声、教材、紀要、学位論文
 - 所蔵資料の電子化ではない
 - メタデータだけのDB構築ではない
- 「著者としての研究者」
- コンテンツは増え続けるもの！

コンテンツの2タイプ

	個別モノ	一括モノ
代表的なコンテンツの例	学術雑誌論文、 学会発表資料	研究紀要、学位論文、 科研報告書
性格	所属研究者の研究成果	機関としての活動成果
出自	外で刊行	大学が出版
対象物	そもそも把握しづらい	把握しやすい
アタック先	個々の教員	編集委、教授会など
収集範囲	過去のものあまり残っていないので、目標をカレント分に絞らざるを得ない。	バックナンバーも書庫にわんさどある
対コスト比	がんばってがんばってがんばってやっと少しずつ集まる	ほとんど苦労はない。スキャン経費だけの問題
IRの持続的発展のための意義	非常に重要	あまり意味がない(協力してほしい個々の研究者と無関係)
だから...	思いっきり注力する！	粛々と進める

一括モノ：紀要

- **主な調整先：紀要編集委員会**
 - 電子公開の主体は紀要発行母体、図書館は場所貸し（「図書館に持ってかれる」印象を与えないこと！）
- **新刊分：ボーンデジタルで！**
 - 編集・査読プロセスそのものを電子化
 - 印刷業者からPDF納品
（改めて紙からスキャンすることがないように）
- **バックナンバー**
 - 権利処理(事例)
 - 投稿規程を過去に遡って適用
 - HPや紀要、メール等でお知らせ
 - 著者ひとりひとりに許諾
 - スキャン(事例)
 - H大 スキャンのみ5円弱/p(3万ページ)、メタデータ100円/件
 - O大 スキャンOCRつき 15円/p(1万5千ページ)

一括モノ：学位論文

- **主な調整先：教務、学位審査委員会**
 - 抜刷で学位申請するケース
 - 特許取得、出版予定との関係
 - 博論、修論、卒論／誰の／どこでとった？
- **新規授与分**
 - 義務化？
 - 事例：提出書類に許諾書を入れる
- **過去の授与分**
 - 解体再製本費用(事例：約3,000円/冊)
- **Cf. NDLによる学位論文電子化構想**

一括モノ：科研報告書

- 平成19年度報告以前
 - 紙媒体による報告書(いわゆる科研報告書)
 - 多くの場合、成果論文の抜刷(=出版社版)の塊
 - 実績報告書(年度ごと)、成果概要(最終年次)
 - NIIのKAKENデータベースに収録・公開
 - 成果論文
- 平成20年度報告以降
 - 報告書(4～5枚相当の電子報告)
 - NIIのKAKENデータベースに収録・公開
 - 成果論文

個別モノ

- セルフアーカイブ＝OAは著者の権利
 - 教員が登録するか、図書館員が代行するか
- 収集方針・運用方針
 - 公表済文献に限るか
 - 前任地で執筆した文献も対象とするか
- 共著者の意向、出版社のポリシー
- 待っているだけではコンテンツは集まらない
 - 広報
 - **まず1件入れてもらう**(そうすればわかる)
 - ピンポイントな要求 → この論文を！
 - マンツーマンな対話
 - 説明しつくすことを目指さない

この論文を！

- 文献情報DB(WOK、SCOPUS)から
- 研究業績から
- サイエンスカフェ、市民講座、講演会資料
- ニューズな論文(iPS細胞)
- たまたま見かけた論文
- ILLで受付けた文献 **cf. ILLを介した連携プレー**
- 出版社版IR掲載OKの文献
 - AIP, APS, IEEE
 - ELS上の学会誌
(http://www.nii.ac.jp/nels_soc/archive/list/)

先行事例

- ノッティンガム大学、エディンバラ大学
 - 参考文献:e-プリント機関アーカイブのセットアップ(2002.3)
- グラスゴー大学
 - 参考文献:機関リポジトリをコンテンツで満たす(2003.10)
- ロチェスター大学
 - 参考文献:より多くのコンテンツを機関リポジトリに集めるために教員を理解する(2005.1)

<http://www.nii.ac.jp/irp/archive/translation>

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?reference>



References

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?references>

[[Front page](#)] [[Edit](#) | [Freeze](#) | [Diff](#) | [Backup](#) | [Upload](#) | [Reload](#)] [[New](#) | [List of pages](#) | [Search](#) | [Recent changes](#) | [Help](#)]

- [参加機関一覧](#)
- [機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト](#)
- [DRFについて](#)
- [DRF in English](#)

- [国際会議シリーズ](#)
 - [DRFIC2008](#)
- [ワークショップシリーズ](#)
 - [DRF1](#)
 - [DRF2](#)
 - [DRF3](#)
- [地域ワークショップシリーズ](#)
 - [DRF-Okayama](#)
 - [DRF-Kanazawa](#)
 - [DRF-Sapporo](#)

- [IR設立・運営に関する参考文献](#)
- [実務のための関連資料](#)
- [トピック](#)
- [イベント開催情報](#)
- [機関リポジトリに関する国内のメディア報道一覧](#)
- [システム・ツール関連情報](#)



Digital Repository Federation

機関リポジトリの設立・運営に関する参考文献 [†]

arXiv.orgのDigital Librariesカテゴリの新着文献 [†]

- <http://arxiv.org/list/cs.DL/recent>

実務事例報告類 [†]

- 筑木一郎(2007). "学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス" カレントアウェアネス, (293), pp.21-30
- 北村多樹子(2007). "高知工科大学学術情報リポジトリの導入について" 高知工科大学紀要, 4(1), pp.167-171
- 橋洋平(2007). "金沢大学学術情報リポジトリKURAの構築と課題" 大学図書館研究 79, pp.18-26
- 阿藤品 治夫(2005). "機関リポジトリを軌道に乗せるため為すべき仕事 —千葉大学の初期経験を踏まえて—". 情報管理. Vol. 48, No. 8, pp.496-508
- [学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト参考文献・関連資料](#)
 - より多くのコンテンツを機関リポジトリに集めるために教員を理解する
 - 機関リポジトリをコンテンツで満たす: DAEDALUSプロジェクトから得た実践的戦略
 - サウサンプトン大学の機関リポジトリが対象とする学術研究
- [OAI-PMHのNIIメタデータ・データベースへの適用について関連翻訳文献](#)
 - グラスゴー大学におけるe-プリント機関アーカイブの展開
 - DAEDALUS: グラスゴー大学におけるEPrintsとDSpaceの初期の使用経験
 - e-プリント機関アーカイブのセットアップ

ノッティンガム大学、エディンバラ大学(英国)

- 原則的には、「百聞は一見に如かず」。デモンストレーションバージョンを見せる
- 教員は「雑誌危機」それ自体にはまったく興味がない
- 長期的な経費削減の点はあまり強く主張するべきではない
- 物理学以外の学問分野の研究者は、プレプリントを公開するという考えをひどく嫌う
 - e-プリント機関アーカイブのセットアップ(ARIADNE, 31,2002.3)

グラスゴー大学(英国)

- 様々な委員会でプレゼンテーションをして、おおむね勇気付けられる反応。しかし実際にリポジトリにコンテンツがデポジットされるかどうかは別
- イベントは教員との対話のきっかけを得るうえでは役立つが、コンテンツの増加にはつながらない
- OA運動に共感すると予想される教員の支持を集める方法として、教員個人のウェブページの調査
 - 機関リポジトリをコンテンツで満たす(ARIADNE,37, 2003.10)

ロチェスター大学(米国)

- 「それを作れば、彼らはやってくる」というせりふは今のところIRには当てはまらない
- 教員にとってのIRの最大の価値は、IRに投稿した研究成果を他の人々が発見・利用して引用すること
- 「機関リポジトリ」という言葉は、必ずしも個人のニーズや目標ではなく、機関のニーズや目標を支援・達成するために設計されたシステムであることを暗示してしまう
- インタビューから得た言葉を使ってIRを説明する
 - より多くのコンテンツを機関リポジトリに集めるために教員を理解する(D-Lib Magazine, 11(1), 2005.1)

2008-07-11

- [Digital Repository Federation](#)

2008-07-10

- [参加機関一覧\(第一期\)](#)

2008-07-08

- [Journals](#)

[edit](#)

アクセス計: 2287

Today: 13

Yesterday: 0

閲覧者数: 2

- [学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト参考文献・関連資料](#)

- 英国継続・高等教育におけるイープリントおよびオープンアクセスジャーナル論文のためのモデルの開発
- オープンアクセスへのグリーン・ロードの急速前進: グリーンとゴールドの混同に対する反論
- 同一ジャーナルに掲載されたオープンアクセス論文と非オープンアクセス論文のインパクトを比較する
- ポインダーの視点: 10年を経て
- ポインダーの視点: 痛みなくして得るものなし

担当者勉強会記録(北海道大学) [†]

平成19年5月に行った部内勉強会(機関リポジトリ、オープンアクセス運動に関する文献レビュー)の記録です。事実誤認、理解不足を含むかもしれませんがご容赦ください。(北大・杉田)

- e-プリント機関アーカイブのセットアップ(2002.3)
 -  [e-プリント機関アーカイブのセットアップ.ppt](#)
- 機関リポジトリをコンテンツで満たす: DAEDALUSプロジェクトから得た実践的戦略(2004.4)
 -  [機関リポジトリをコンテンツで満たす: DAEDALUSプロジェクトから得た実践的戦略.ppt](#)
- 同一ジャーナルに掲載されたオープンアクセス論文と非オープンアクセス論文のインパクトを比較する(2004.6)
 -  [同一ジャーナルに掲載されたOA論文と・・・.ppt](#)
- サウサンプトン大学の機関リポジトリが対象とする学術研究(2004.7)
 -  [サウサンプトン大学の機関リポジトリ.ppt](#)
- ポインダーの視点: 10年を経て(2004.10)
 -  [ポインダーの視点3.ppt](#)
- ポインダーの視点: 痛みなくして得るものなし(2004.11)
 -  [NoGainWithoutPain.ppt](#)
- より多くのコンテンツを機関リポジトリに集めるために教員を理解する(2005.1)
 -  [より多くのコンテンツ・・・教員を理解する.ppt](#)
- オープンアクセスへのグリーン・ロードの急速前進: グリーンとゴールドの混同に対する反論(2005.1)
 -  [オープンアクセスへのグリーン・ロードの急速.ppt](#)
- 機関リポジトリを軌道に乗せるために為すべき仕事 千葉大学の初期経験を踏まえて(2005)
 -  [機関リポジトリを軌道に乗せるため為す.ppt](#)
- From Nought to a Thousand: the HUSCAP Project(2006.10)
 -  [From Nought to a Thousand.ppt](#)

百聞は一見に如かず

- 早く公開して、見せて伝える！
 - 「デモンストレーション用のデータベースを構築する際に重要なことは、「本物の」コンテンツを使うことである。」（ノッティンガム大学、エディンバラ大学（英国））
 - 雑誌掲載論文30件で試行公開スタート（北海道大学）
 - HUSCAP：現在、8割は紀要論文
- 初期コンテンツの選定：一括モノはできるだけ後で投入
 - 「紀要を電子ジャーナル化する話か、僕には関係ないや」
 - 「えー、ひとりひとりが文献を出すのか、めんどくさいな」

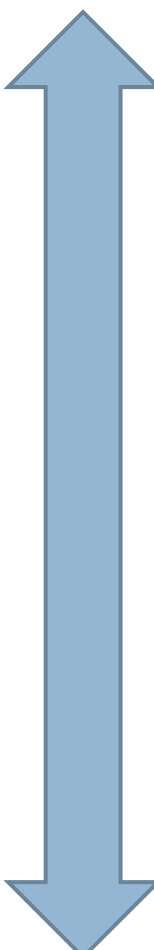
教員への広報

- 愛称、キャラクタ、グッズ
- ちらし、ポスター
- 学報

- 説明会

- 説明会の質疑応答
- 切り番インタビュー
- 個別コンタクト

- 統計情報のメール通知



広く認知度を
高める

意義を
知ってもらう

名前・愛称

学内の先生に認知してもらうことが重要！

□ 名前

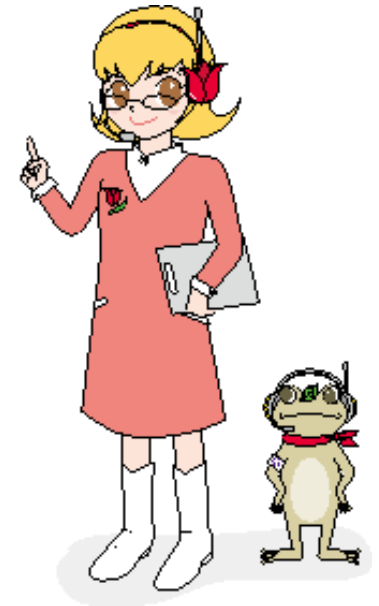
- リポジトリ(CURATORほか多数)
- コレクション(HUSCAP、Barrel、TeaPot、MIUSE等)
- アーカイブ(室蘭工大、YUNOCA)
- システム(SUCRA)

□ 愛称

- なし
- 語呂あわせ(HUSCAP、CURATORほか多数)
- Barrel、TeaPot、**紅**

キャラクター・広報グッズ

- キャラクタ
- 広報グッズ
 - クリアファイル
 - バッグ
 - うちわ
 - 食堂三角スタンド
 - タンブラー
 - 缶バッチ
 - 鉛筆、ボールペン
 - 付箋
 - 壁紙





<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~libinoc/modules/myalbum/>



第1回DRFワークショップ
グッズコンペ



筑波大
タンブラー用紙

**北大
生協食堂の三角スタンド**

重要 HUSCAP のおらい

1. 図書館蔵書としての電子コレクション構築
 本学の研究成果を図書館資料として大切に保管し、後世へ継承します。
2. オープンアクセス化による Visibility アップ
 無料オンライン公開により、より多くの読者に、皆さまの研究成果を届けることができます。

物理学分野について、無料でオンライン公開された論文は、そうでない論文よりも被引用率が 5.6 倍高いという統計結果が公表されています。
 (Steven Harnad, Comparing the Impact of Open Access (OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals, D-Lib Magazine, v.10, no.6 (June 2004)
<http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html>)

海外では Elsevier, IEEE, Springer, Wiley 等大手出版社を含む 91% のジャーナルが、掲載論文を大学サイトで公開することを許容しています。(ただし、電子ジャーナル版 PDF の公開は認めず、著者原稿の公開を認めている出版社が多いのが現状です。)



学外への文献複写をご利用の方へ

あなたの研究論文を 読みたくても 読めない人がいます

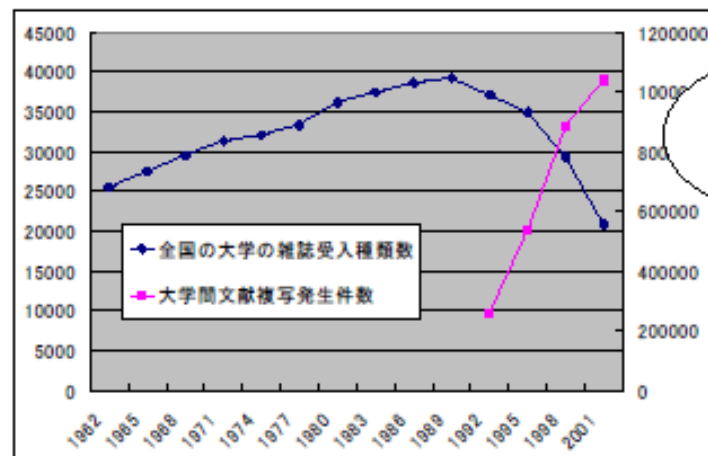
読者を増やそう！

HUSCAP:北海道大学学術成果コレクションの御案内

学術雑誌の価格は高騰を続けています。本学では共通経費化等の措置により、一定量のジャーナル・タイトルの購読を維持できていますが、それでも非購読誌の論文の入手にはこのように学外への文献複写に頼るしかありません。

世界の他の大学・研究機関でも研究に必要な文献の入手は非常に困難な状態になってきています。下図は、日本国内の大学における雑誌受入タイトル数と文献複写の発生数を示したものです。1980年代の終わりを境に、国内で閲覧可能なタイトルは半減しています。

あなたの研究論文を読みたくても読めない人がいます。著作を北海道大学学術成果コレクション(添付のパンフレットを御覧ください)から公開しませんか？



どこの大学でも
文献入手は
たいへん



北大
ILL利用者へのちらし

説明会

工夫が必要！（ただ開くだけでは参加者僅か）

- 教授会などにお邪魔する
 - 短く！15分もらったなら5分説明10分質疑応答
- 集まりそうなものの一部を充てる
 - 情報リテラシーのついで。WOS講習会
 - 著作権研修会を企画

うまくいけば、効率よく広報できる

（ちらしはスパム、個別コンタクトは時間がかかる）

質疑応答が
いちばん大事

個別コンタクト＝インタビュー

- 説得しに行くわけではなく、話を聞きに行く
 - ▣ 研究について、投稿雑誌について、OAについて、図書館について → **図書館活動全体にとって有益**
- きっかけは何でも
 - 質問が来たら、会いに行く
 - 「ご意見について、もう少し詳しく助言をいただきたい」
 - ファイルが送れない「USBメモリ持って今から伺います」
 - 図書館でこんなことを考えている、アドバイスほしい
 - 先生が読んでいる雑誌や投稿する雑誌について教えてほしい
 - ILLで、カウンターで、コピー機で、道端で(研究室を訪問しなくても)

個別コンタクトの企画

- 誰から？
 - トップから
 - （事例） 学位授与式のあいさつで話題に
 - 身近な先生から
 - 先生の輪
 - 全員！（帯広畜産大学）
- いつ行くか？
 - 構築前
 - （事例） 運用方式、構築の参考に
 - 構築後

個別コンタクト・質疑応答の準備

- 予備知識
 - 相手のこと。発表論文等
 - 相手の研究分野の主な出版社ポリシー
 - 雑誌危機（購入雑誌タイトル、EJ予算）
 - インパクトファクター
 - 海外の情勢（NIH、英米議会、ハーバード大学、義務化）
 - 「ポインダーの視点」「Open Access Japan」
 - 日本の状況（日本のIR数、先行大学のやり方）
- こわがらずに誠実に熱意を持って

ハーバード大学(米国)

- 文理学部(平成20年2月)、法学部(平成20年5月)で、オープンアクセス方針を全会一致で採決
- 学部が大学執行部に、著作権を分け与える
 - 非排他的
 - 所属研究者は特定の論文について、適用を免除させることができる
- 大学は所属研究者の著作をオープン・アクセスリポジトリで公開(現在のところ未構築)

意見の反映、なるべく早い対応

- 「できません」ではなく、できるだけ対応
- 譲れない部分、難しい部分は代替案、相談
(例)

– 北大HUSCAP

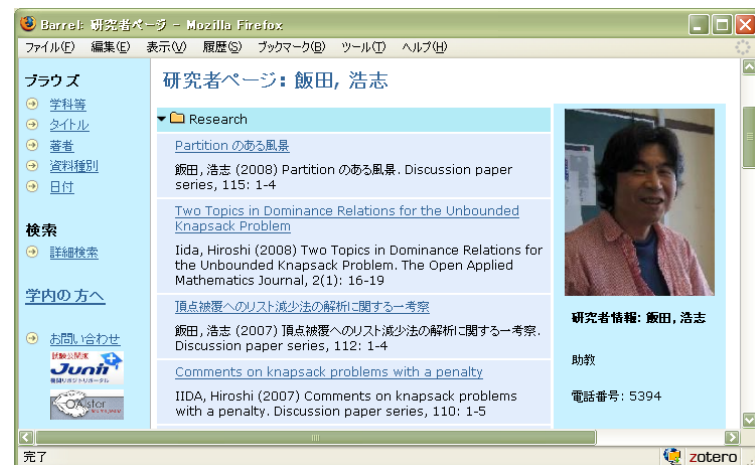
- メールの文字化け
- トップページに文言

– 小樽商大Barrel

- OCR
- タイトル変更希望
- メタデータ出力機能
- 研究者ページ →

– 静岡大SURE

- ブラウズ画面の折り畳み
- 著者がコメントできる欄



統計情報のメール通知

- 各文献のダウンロード回数を月次で提供者にメール通知

北大、小樽商大、筑大、北陸先端大などで実装

共著者にも!

- 意義の実証

— 「意外なところで、あるいは反対にもっともな所で読まれていたりして、大変興味深く、かつ今後の刺激になるデータです。今後とも楽しみにしております。」

Barrelご提供文献の閲覧状況(2008年〇月)

〇〇先生
日頃より附属図書館の事業にご協力頂き.....

附属図書館では、「小樽商科大学.....(Barrel)」に著作を提供下さったみなさまへ、月1回、閲覧状況をお知らせしています。

以下は、文献ごとの閲覧回数です。より詳しい内容もご提供できますので、ご希望の方は....

※詳細版の内容はドメイン別の閲覧回数です。
.edu(米国教育機関)から何回、.otaru-uc.ac.jp(小樽商大内)から何回、といった内容になります。

来月以降こうした通知が不用であれば.....

【2008年〇月 文献別被閲覧回数】

○ダウンロード XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

○ダウンロード XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

:

さいごに

- 学内研究者(著者)に対する図書館のサポート。
- 教員と作り上げるもの。信頼関係を結ぶきっかけ。
- 好きになってもらえば、おのずからコンテンツは集まる。
- **少しずつでもいつもコンテンツが増え続けるよう！**
- 先行大学のいいところはもらいつつ、
- 自大学に合った進め方で。しかし、
- 図書館から飛び出て、教員と話すことが一番大切。

Registry of Open Access Repositories (ROAR)

[Home](#) [Browse](#) [Search](#) [Content Search](#) [Register a Repository](#) [Help](#) [Login](#) [Register in ROARMAP](#)

Any Geographic Country Any System Software Any Content Type Sort by Name

Registry of Open Access Repositories (ROAR) resulted in **1107** repositories

View this result set as a chart:



Export this result set as:

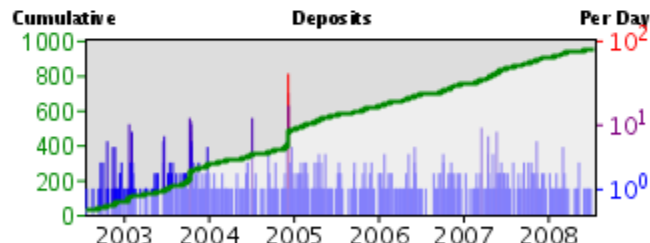
- [Comma-Separated Format](#)
- [Google Earth Overlay](#)
- [\(Thumbnails / Bars\)](#)
- [... other formats](#)

Analyse the **content** of these repositories ([caveats](#))

Export repository records summary as: [View repository contents as:](#)

- [Cumulative Graph](#)
- [Cumulative Table](#)
- [File Format Graph](#)

@RCHIVESIC (947 records)



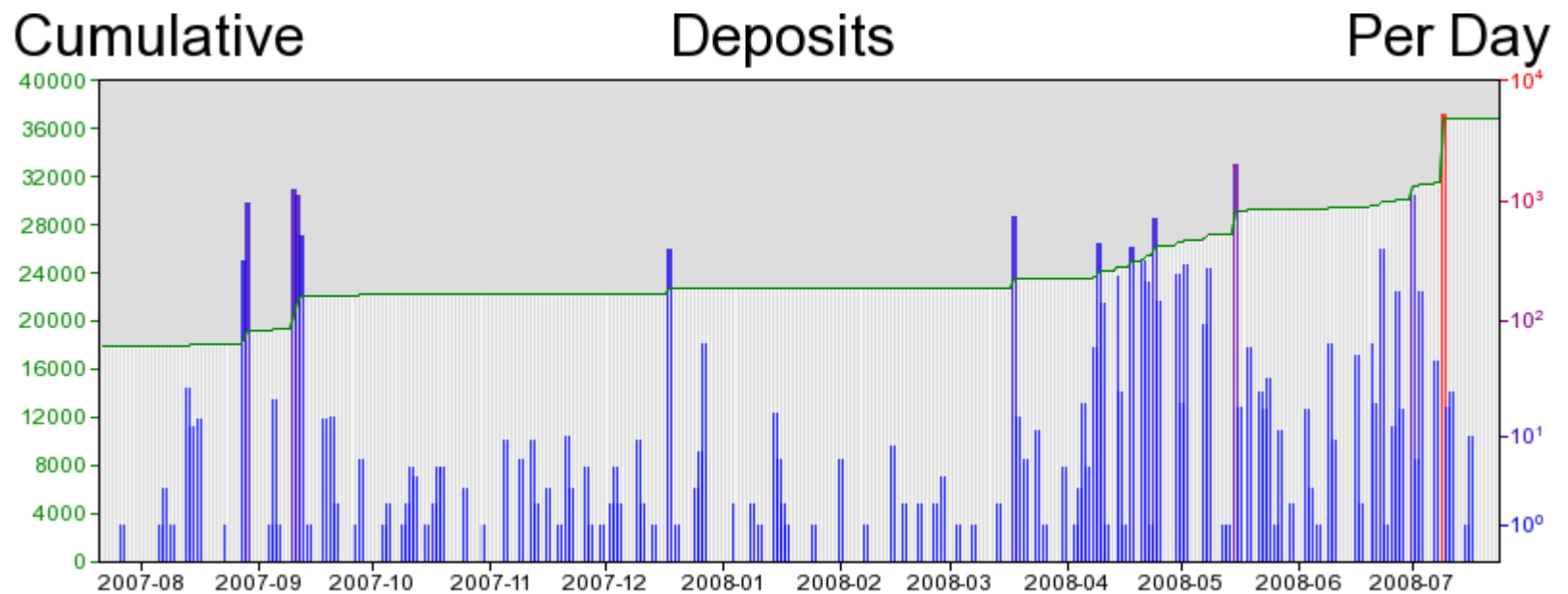
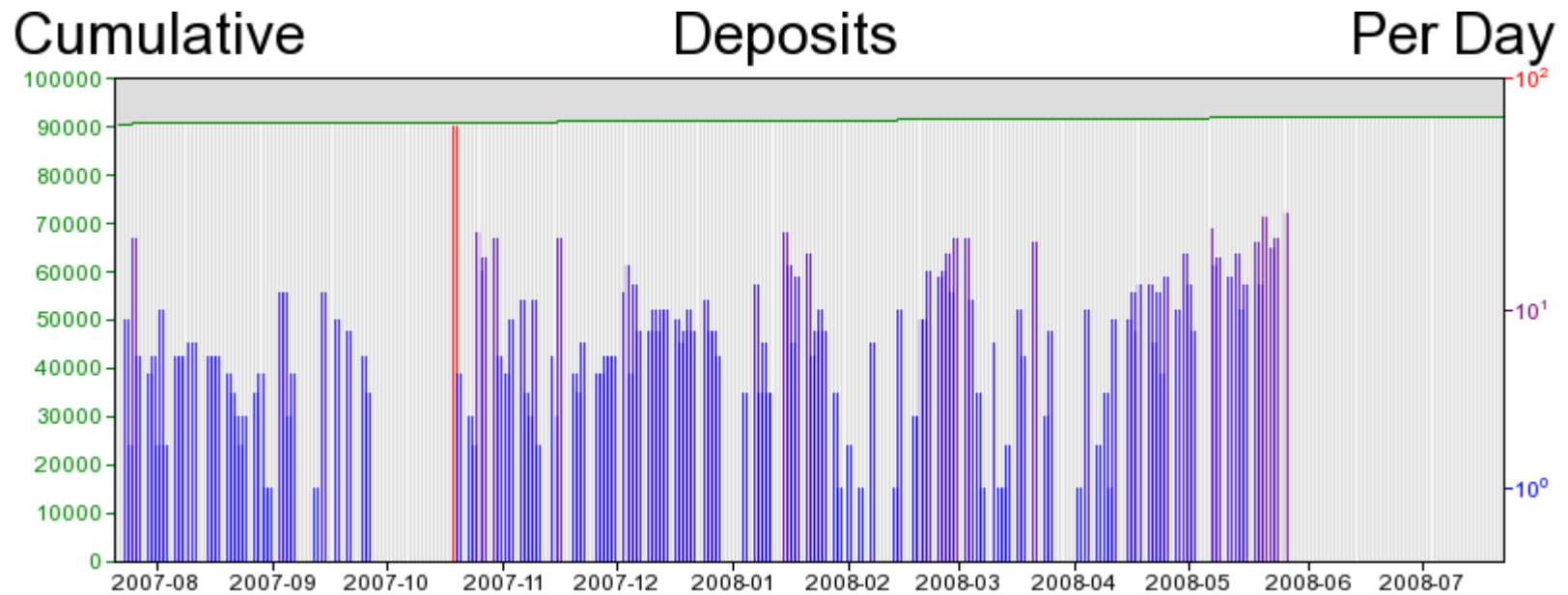
Running **HAL**, based in **France** and is registered as **Research Cross-Institutional**

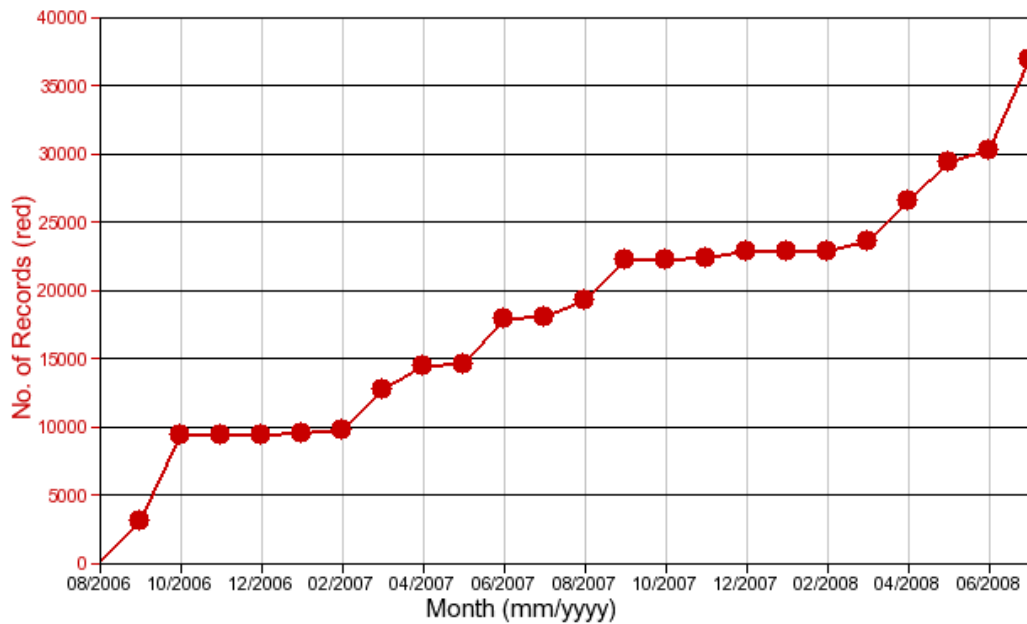
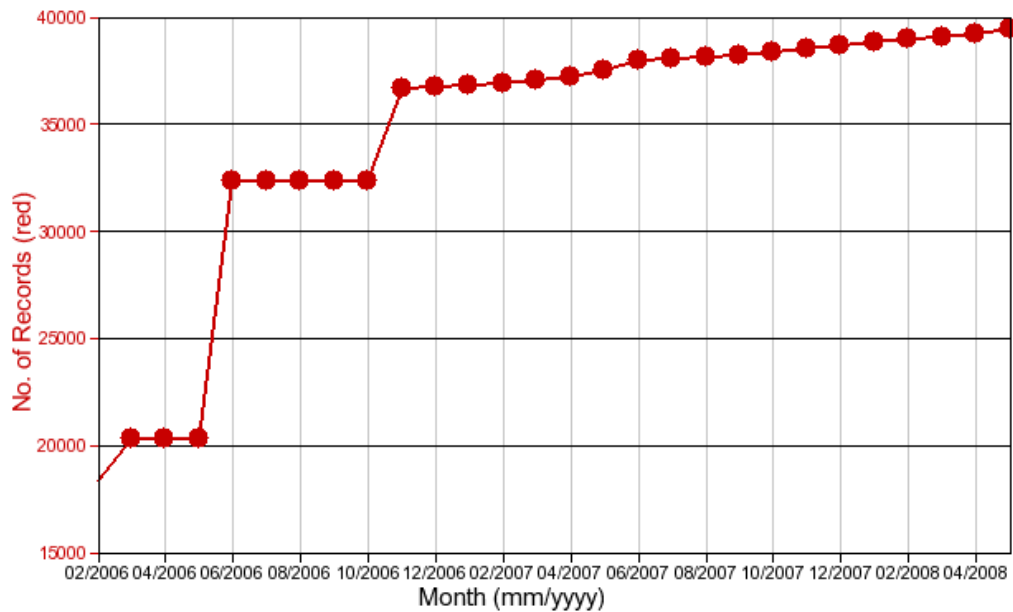
Registered on 2002-05-17

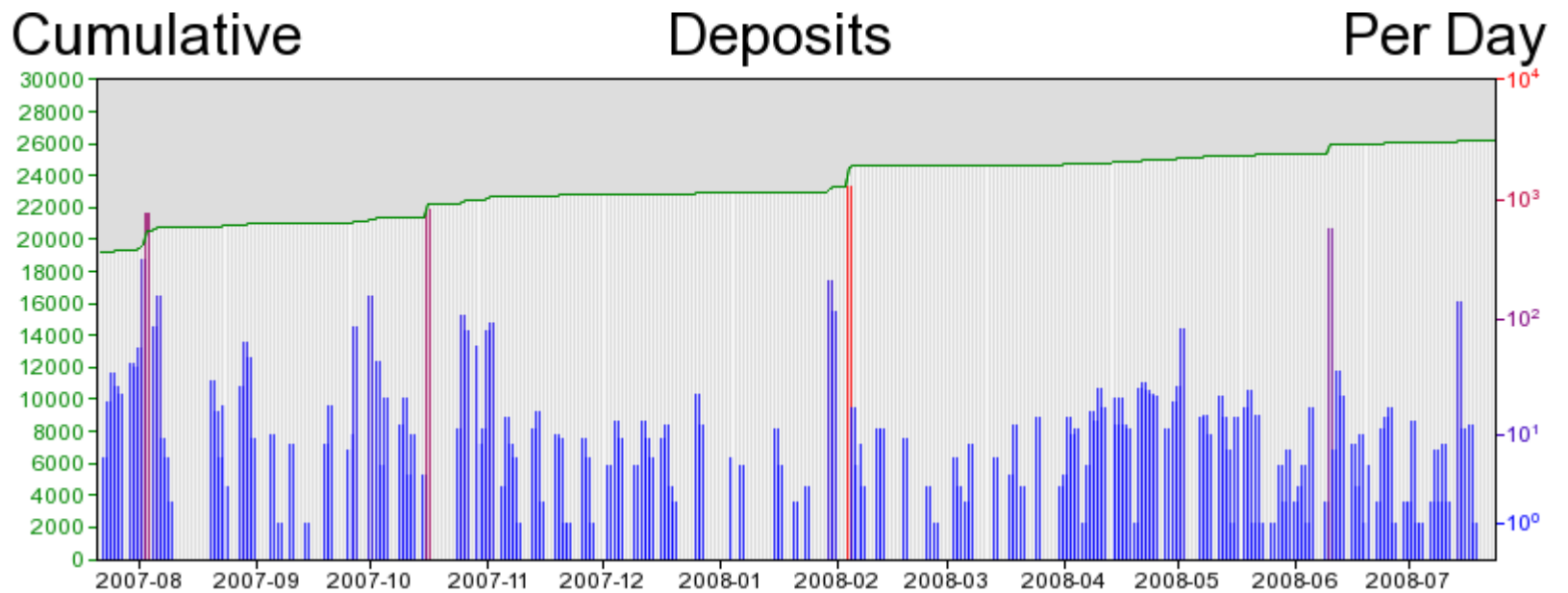
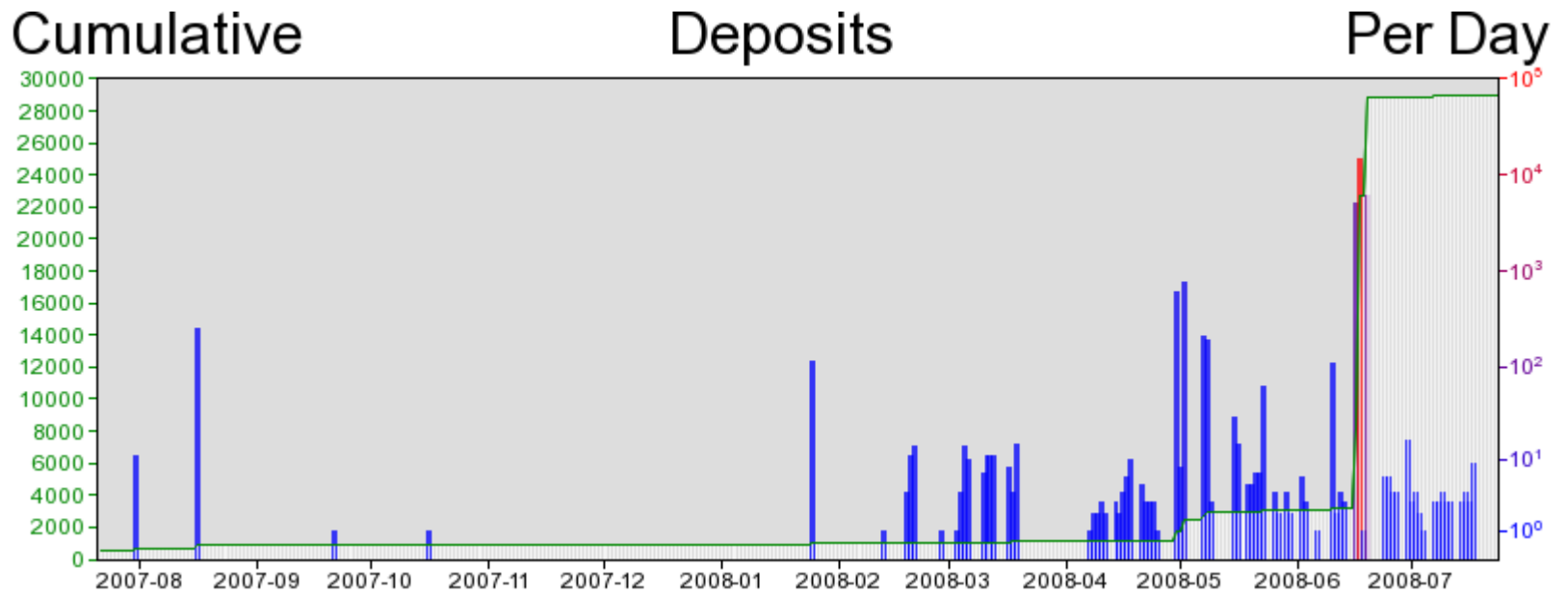
Cumulative deposits: 947 total

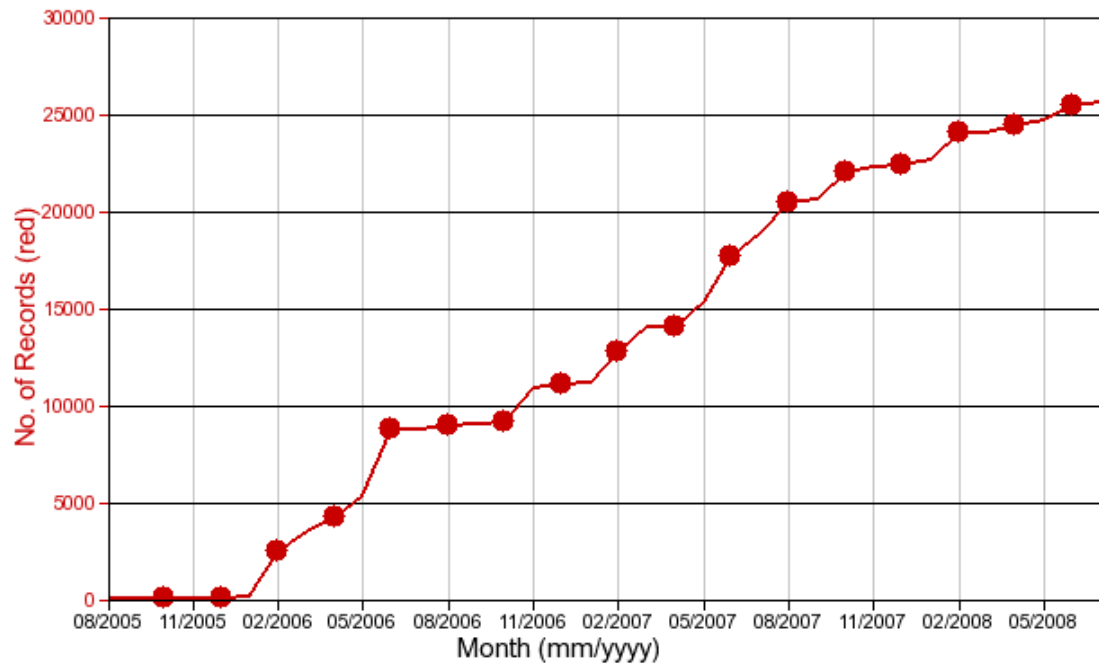
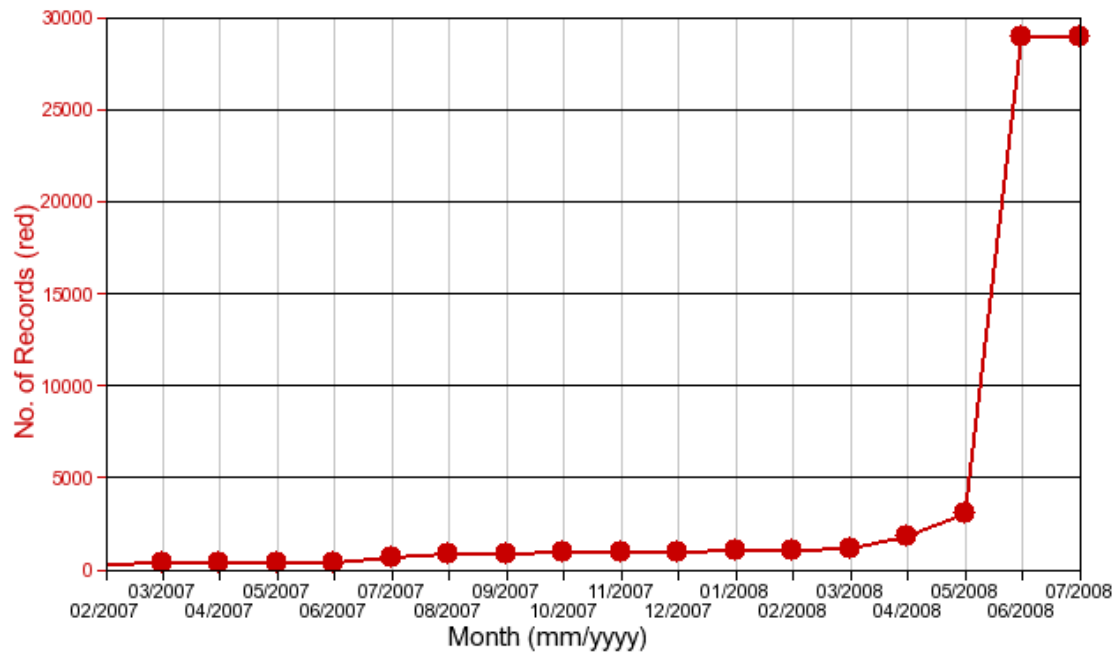
[\[table\]](#) [\[graph\]](#)

Daily deposits in last year: 73 days of 1-9, 0 days of 10-99, 0 days of 100+ [\[table\]](#) [\[graph\]](#) (PNG format)) [\[interactive graph\]](#) (requires SVG format support))









さいごに

- 学内研究者(著者)に対する図書館のサポート。
- 教員と作り上げるもの。信頼関係を結ぶきっかけ。
- 好きになってもらえば、おのずからコンテンツは集まる。
- **少しずつでもいつもコンテンツが増え続けるよう！**
- 先行大学のいいところはもらいつつ、
- 自大学に合った進め方で。しかし、
- 図書館から飛び出て、教員と話すことが一番大切。



ブラウズ

- [学科等](#)
- [タイトル](#)
- [著者](#)
- [資料種別](#)
- [日付](#)

お知らせ

- [学報352号にBarrelの新機能の紹介記事を掲載しています。どうぞご覧ください。](#)
- [BarrelのPC用壁紙を作成しました。ご利用ください！](#)
- [高頻度利用第1位記念インタビューを掲載しました！](#)
- [8/7 利用統計リストを備えました！左側メニューの「利用統計」からご覧下さい](#)
- [800件目は小林友彦先生の南アフリカのアンチダンピング法制（下）でした！](#)
- [700件目は宝福先生のドイツの環境政策：循環型経済・廃棄物法をめぐって\(その二\)でした！](#)
- [600件目は松尾先生の組織内部の競争と協調がイノベーションに及ぼす影響：営業部門の実証研究でした！](#)
- [500件目は江口先生の瞬間と永遠：ロンサールの詩的時間構造でした！](#)
- [400件目は飯田先生のTwo Topics in Dominance Relations for the Unbounded Knapsack Problemでした！](#)
- [300件目は鈴木先生のヴィルヘルム・ベルシェとゲルハルト・ハウプトマンでした。](#)
- [200件目の文献は一原先生の違法性の錯誤と負担の分配\(1\)でした。](#)
- [3月7日 正式公開しました！小樽商科大学学術成果コレクション運用要項](#)
- [100件目の文献は今西先生の民衆運動のなかの「暴力」でした。](#)
- [OAIsterでBarrel収録文献が検索できるようになりました！](#)

- [特別インタビュー ~~新刊~~](#)
[乙政佐吉先生\(商学\)](#)
「1990年代初頭にアメリカで開発さ...
- [800件目インタビュー ~~新刊~~](#)
[小林友彦先生\(企業法\)](#)
「南アフリカにおけるアンチダンピ...
- [700件目インタビュー](#)
[宝福則子先生\(一般教育\)](#)
「1996年に施行されたドイツの...
- [600件目インタビュー](#)
[松尾睦先生\(アンレ\)](#)
「もともと競争、切磋琢磨という言葉...
- [500件目インタビュー](#)
[江口修先生\(言語センター\)](#)
「フランス16世紀の国民詩人、ピエ...
- [400件目インタビュー](#)
[飯田浩志先生\(社会情報\)](#)
「特に新しい事が書いてある訳では...
- [300件目インタビュー](#)
[鈴木将史先生\(言語センター\)](#)
「1912年にノーベル賞を受賞し、...
- [200件目インタビュー](#)
[一原亜貴子先生\(企業法\)](#)
「刑法学が私の専門分野で、責任論...

検索

- [詳細検索](#)

統計

- [利用統計](#)

学内の方へ

- [お問い合わせ](#)

